

## 第2章 奈良県の子どもを取り巻く現状と課題

### 1 少子化の現状

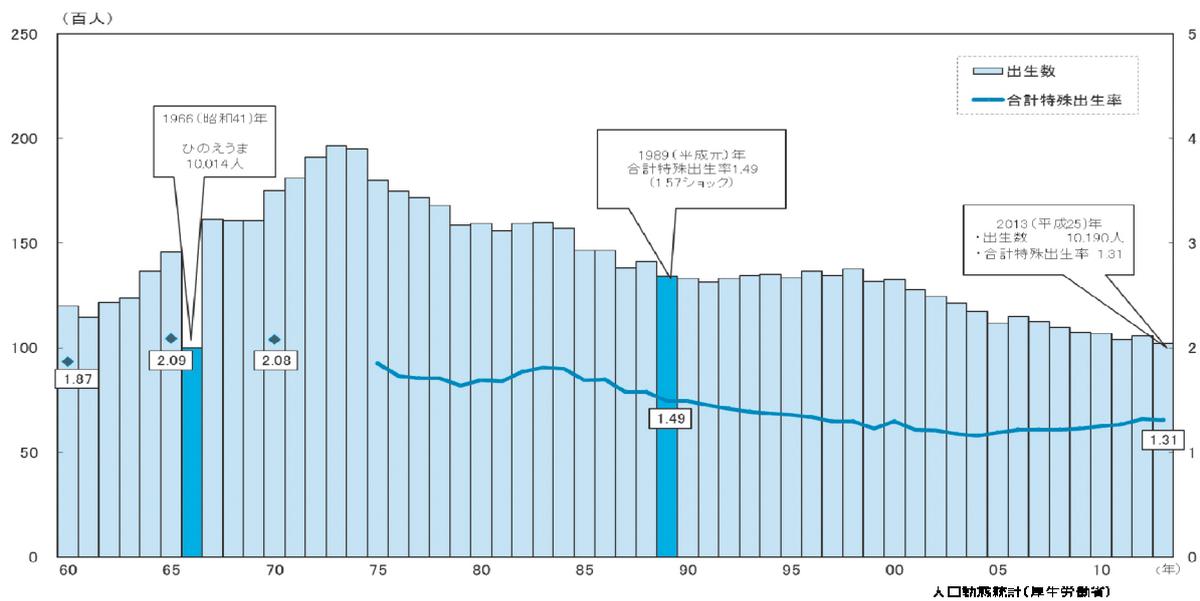
#### (1) 合計特殊出生率の推移等

奈良県・全国ともに、出生数及び合計特殊出生率は、1970年代半ばから長期的に低下傾向となっています。

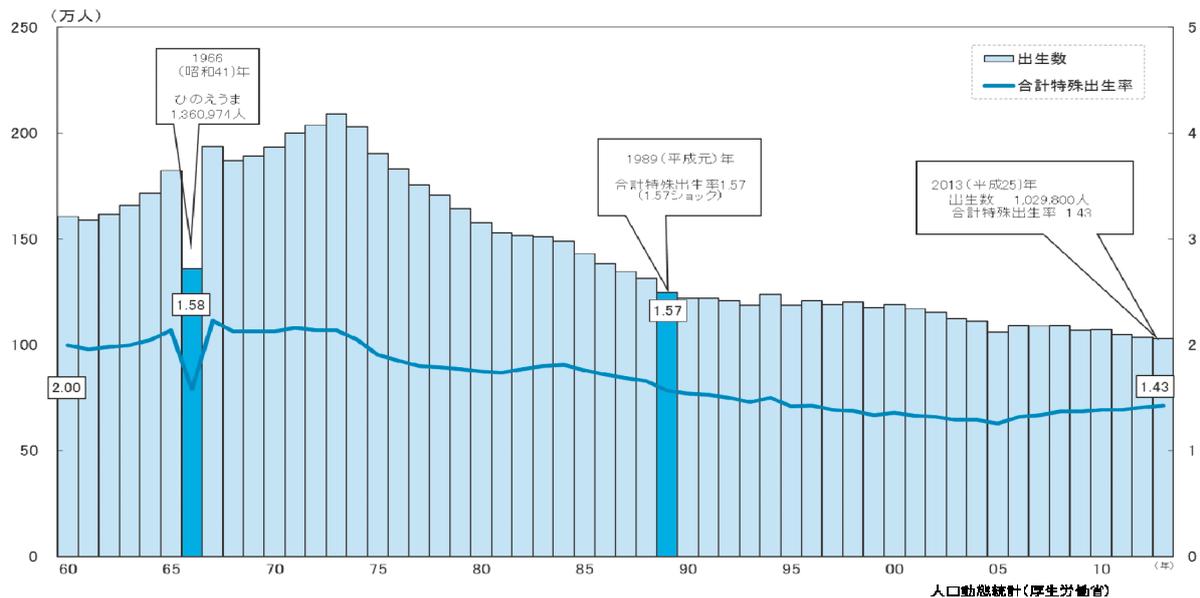
奈良県の出生数は、2012年は前年よりも増加し10,565人でしたが、2013年は10,190人で、前年から375人(3.5%)減少しました。

合計特殊出生率は、1970年には2.08で、全国で23位でしたが、2013年は1.31となり、全国43位(ワースト4位)に低下しました。

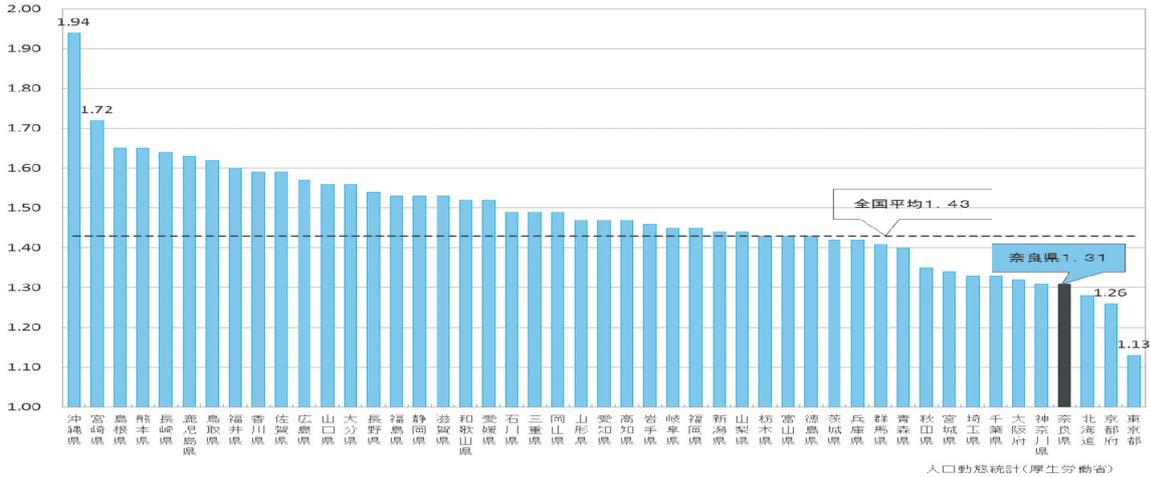
#### ■ 出生数と合計特殊出生率の推移(奈良県)



#### ■ 出生数と合計特殊出生率の推移(全国)



## ■都道府県別合計特殊出生率(平成 25 年)

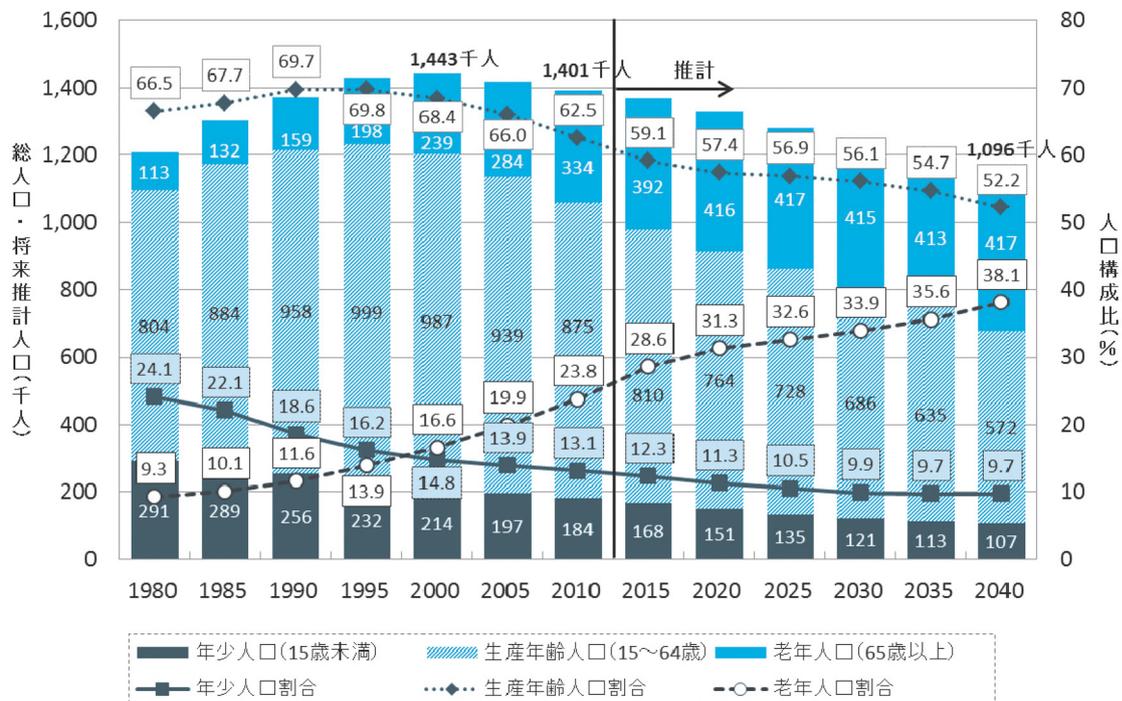


## (2) 将来の人口予測

国勢調査の結果から、奈良県の総人口の推移をみると2000年をピークに減少に転じ、2010年は、約140万人となりました。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には、約109万6千人になると予測されています。

また、年少人口(15歳未満の人口)は、2010年の18万4千人(総人口に占める割合13.1%)から、2040年には、10万7千人(同9.7%)まで減少すると予測されています。これに対し、老年人口(65歳以上)は、2010年の33万4千人(23.8%)から、2040年には、41万7千人(38.1%)となり、人口の約4割が65歳以上の高齢者になると予測されています。

## ■将来推計人口及び年齢3区分人口の割合(奈良県)

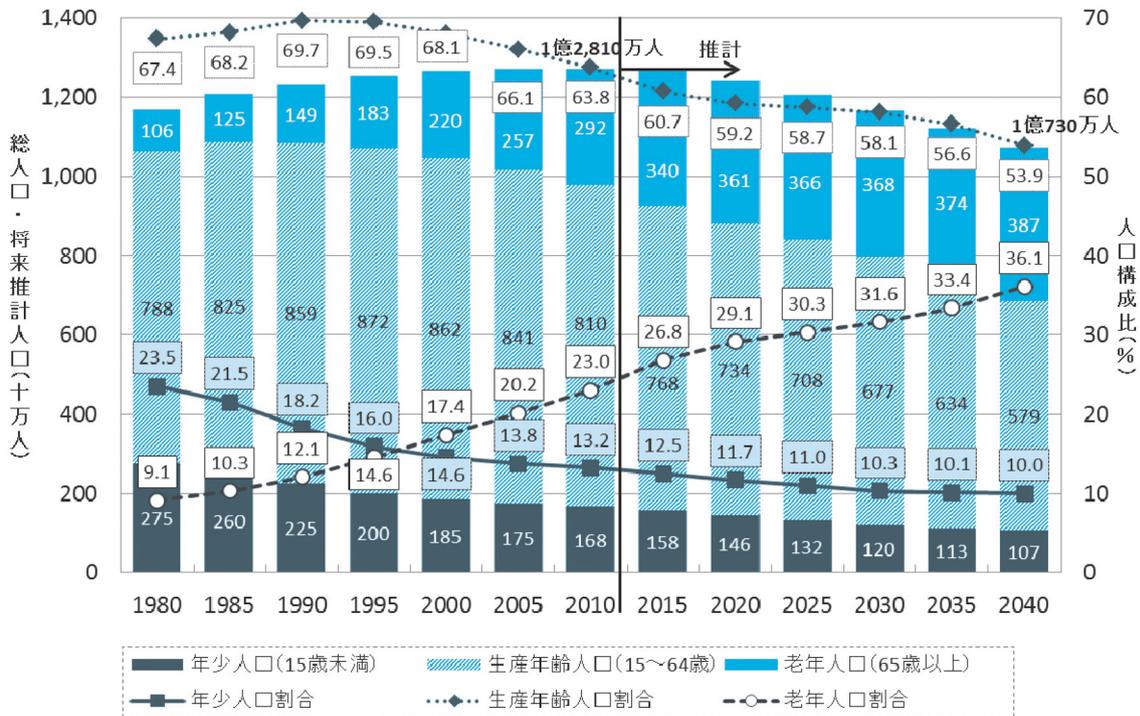


[人口推移]国勢調査(総務省) [将来人口]日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

全国においても同じような傾向がみられ、2010年の総人口は約1億2,810万人となりました。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には、約1億730万人になると予測されています。

また、年少人口(15歳未満の人口)は、2010年の1,680万人(総人口に占める割合13.2%)から、2040年には、1,070万人(同10.0%)まで減少すると予測されています。これに対し、老年人口(65歳以上)は、2010年の2,920万人(23.0%)から、2040年には、3,870万人(36.1%)になると予測されています。

■将来推計人口及び年齢3区分人口の割合(全国)



[人口推移]国勢調査(総務省) [将来人口]日本の将来推計人口(平成25年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

<コラム①> 我が国の人口の推移と長期的な見通し

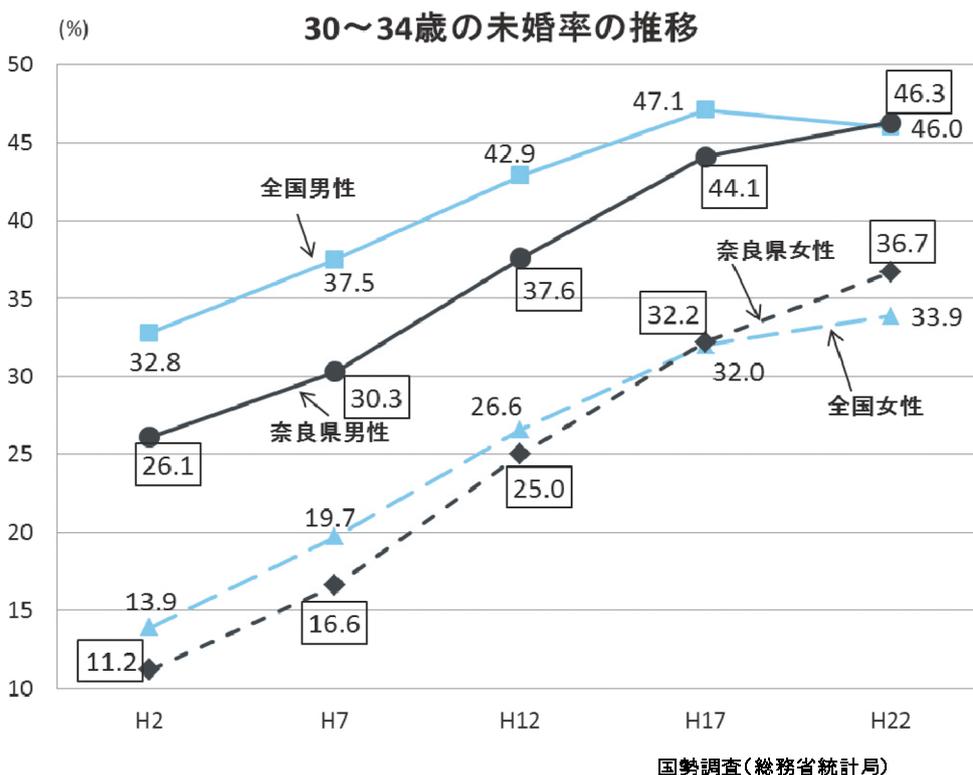
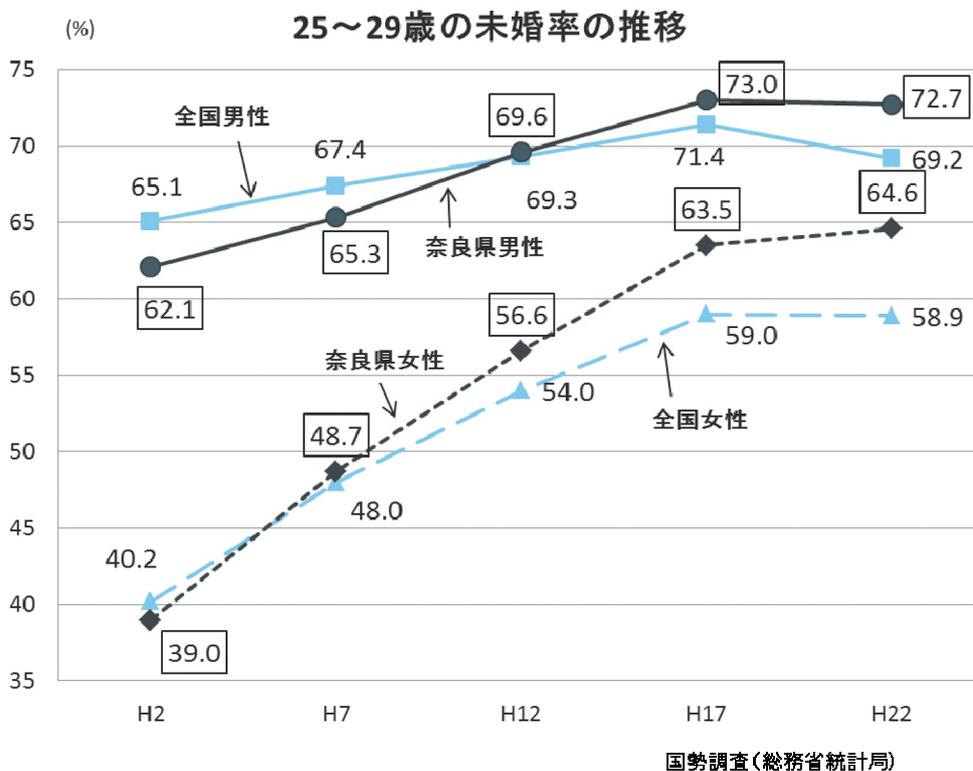
- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計(平成 24 年1月推計)」(出生中位(死亡中位))によると、2060年の総人口は約 8,700 万人まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が 2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07 程度(2020 年には 1.6 程度)まで上昇すると、2060年の人口は約1億 200 万人となり、長期的には 9,000 万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が 1.8 や 2.07 となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね 300 万人程度少なくなると推計される。

まち・ひと・しごと創生本部資料「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像」より

## 2 少子化の要因

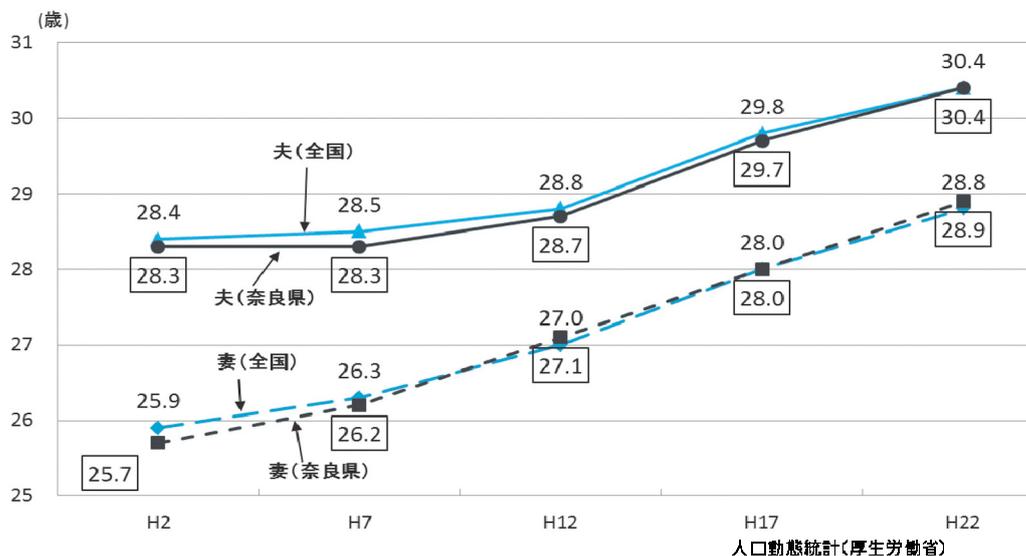
### (1) 未婚率の推移(奈良県・全国)

奈良県の25歳から34歳男女の未婚率は全国に比べ、男女ともに急激に上昇しています。特に25歳から29歳では、平成22年の未婚率は全国よりも大幅に上回っており、未婚化が顕著となっています。



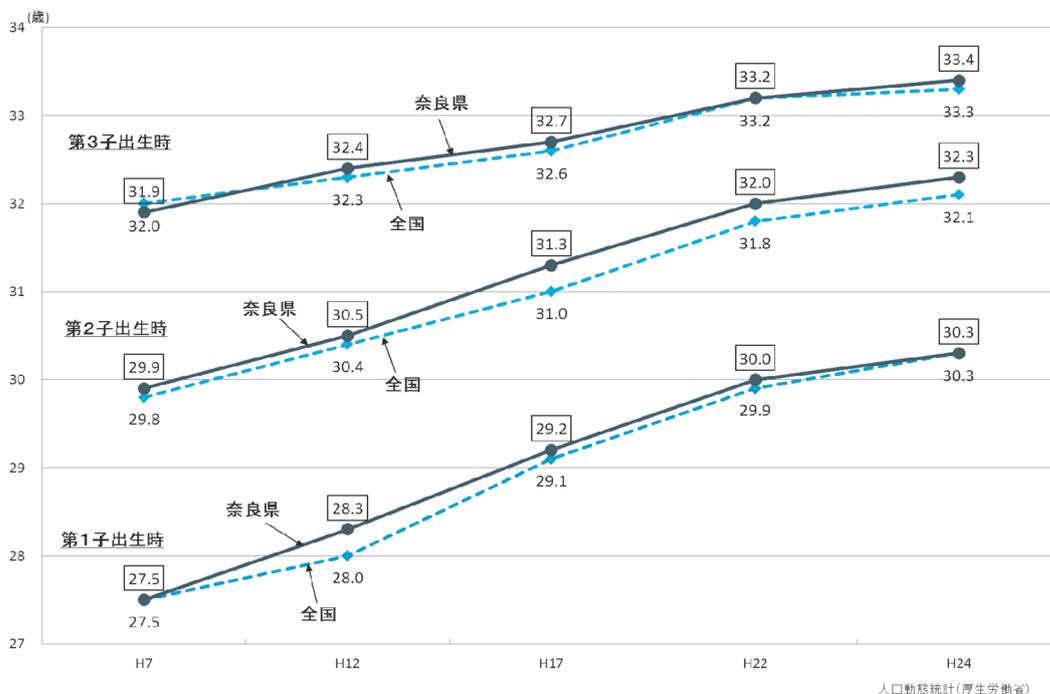
## (2) 平均初婚年齢の推移(奈良県・全国)

奈良県の夫婦の平均初婚年齢は全国並みですが、夫、妻ともに年々上昇しています。特に、妻の平均初婚年齢は、平成7年からの5年ごとに約1歳ずつ上昇しており、夫よりも急激な上昇幅になっています。



## (3) 出生順位別母の平均出産年齢の推移(奈良県・全国)

母の平均出産年齢は、奈良県、全国ともに上昇しており、晩産化が進んでいます。奈良県では、第1子出生時の母の年齢は、平成7年からの5年ごとに出生年齢で約0.7歳、第2子出生時で約0.6歳、第3子出生時で約0.4歳それぞれ上昇しており、特に、第1子の晩産化が進んでいます。



### 課題

若者世代の未婚率の上昇、晩婚化、晩産化が少子化の大きな要因となっているため、少子化の改善のためには、未婚・晩婚化、晩産化への対策が必要です。

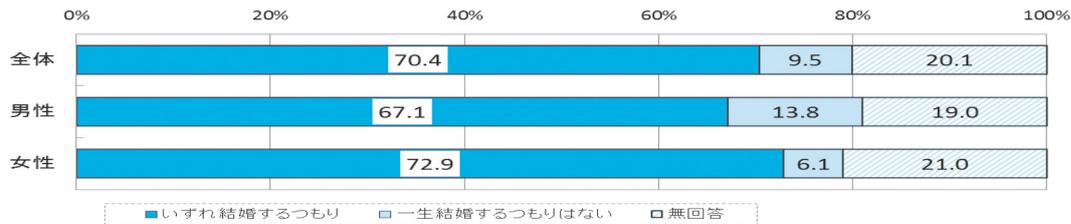
### 3 結婚・出産・子育てをめぐる状況

#### (1) 結婚に対する意識

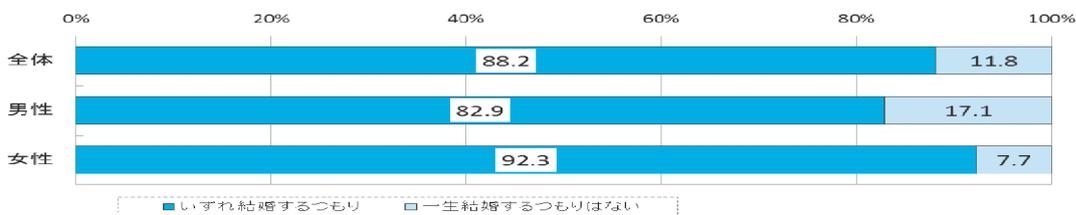
奈良県の20歳から39歳未婚者に対し、自身の一生を通じた結婚に対する意向をたずねたところ、回答があった人のうち、約9割がいずれ結婚するつもりと回答しています。

また、結婚意思のある独身者に、現在交際している人と結婚するとしたら何か障害となることがあるかをたずねたところ、男性では「結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)」が最も多く、女性では「職業や仕事の問題」が最も多くなっています。

#### ■未婚者の生涯の結婚意思(奈良県)

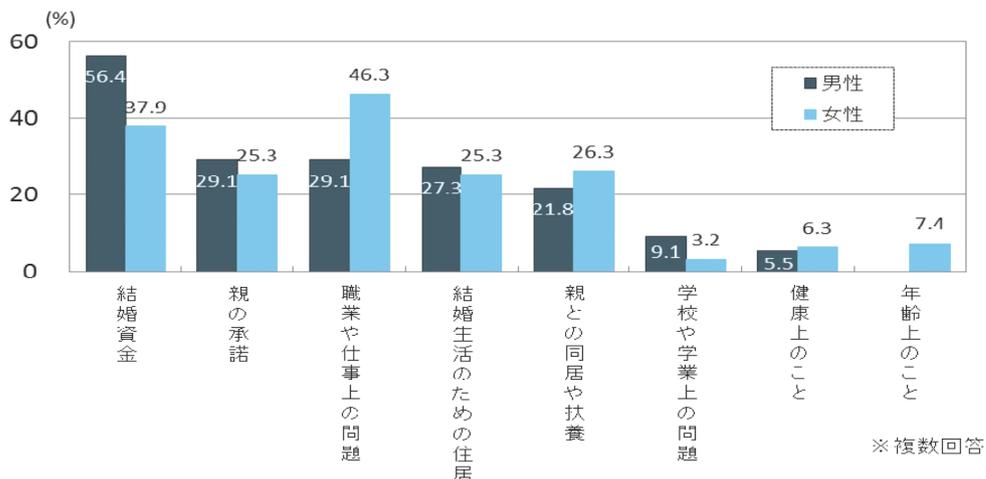


#### <無回答者を除いた割合>



H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

#### ■結婚するとしたら障害になると思うこと



H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

#### 課題

「いずれ結婚するつもり」と考えている独身者が多いことから、若者が結婚の希望をかなえることができるよう、「結婚資金」や「職業や仕事上の問題」など、結婚の障害となっていることを取り除くことが必要です。